

国際協力研修JICA「保健衛生管理セミナー」(2015年5月25日～6月17日)

1. 本研修の概要

多くの開発途上国において、いわゆるヘルスセクターリフォームが計画されている中、保健省をはじめとする保健医療行政組織の能力向上が大きな課題となっている。本研修は、研修員個々の直面する保健医療問題に必要なマネジメント能力の向上を通じて、当該諸国の公衆衛生機関の組織能力向上を図ることを目的とした。

2. 実施方法

当研修は2015年度で26回目を迎え、2015年5月25日（月）から6月17日（水）の約3週間の期間で実施した。最初の週（5/25日から29日）は国立保健医療科学院で、残りの日程はTIC(Tokyo International Center)で行った。

研修の内容には、今日の保健医療の課題を解決するため保健医療従事者のコンピテンシー、特に、マネジメント能力の向上を図るため問題分析把握、人材管理、保健財政、リーダーシップ、コミュニケーション、保健医療サービスの質などの講義と演習、そして地方自治体の保健衛生行政視察（滋賀県）、自治医科大施設見学と地域医療に関する講義等で構成している。さらに小グループによる課題解決に向けたディスカッションノートの作成と発表も組み込んでいる。

3. 対象国

本年度の対象国は、ミャンマー（1名）、アフガニスタン（1名）、ウガンダ（2名）、ケニア（1名）、コンゴ民主共和国（1名）、ジンバブエ（1名）、スーダン（1名）、ザンビア（1名）、タンザニア（1名）、ホンジュラス（2名）およびエリトリア（1名）の11か国であった。また、研修参加者は、地方保健局、中央政府における公衆衛生を担う中堅技術専門官、あるいは教育機関、民間セクター等において公衆衛生現場に従事している13名であった。



【撮影：本院 第一会議室】